

問三 文中の空欄部 W には、次の①～⑥の各文が入る。正しい順に並べるとすれば、どれが最も適切か。後の⑦～⑩から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 5。

① かくいう私もその一人である。

② 「絶対的な美しさ」などというものはありはしないし、「絶対的に価値あるとされるもの」もない。

③ そして、「絶対的に正しいこと」もない。

④ 「絶対におもしろいから」と言われて観た映画に「なんだこりや」と思ったり、「絶対うまいぞ」と言われて食べてみたが、まずくはないという程度だったなんてことは、珍しくもないだろう。

⑤ しかし、世の中に絶対的なものなどない」という考えには共感する人も多いのではないだろうか。

⑥ もちろん、「そんなことはない」と反対する人もいるだろう。

a ① ↓ ④ ↓ ② ↓ ③ ↓ ⑥ ↓ ⑤

b ④ ↓ ① ↓ ⑤ ↓ ② ↓ ⑥ ↓ ③

c ④ ↓ ② ↓ ① ↓ ⑤ ↓ ⑥ ↓ ③

d ⑤ ↓ ④ ↓ ③ ↓ ⑥ ↓ ② ↓ ①

e ⑤ ↓ ① ↓ ④ ↓ ② ↓ ③ ↓ ⑥

問四 文中の空欄部 X に入る言葉として最も適切なものを、次の⑦～⑩から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 6。

a それほど多くない

b 立ち入った検討なし

c 率直な気持ちだけ

d できれば応援したい

e 唯一絶対じゃないぞ

問五 傍線部 A に関して、「真理の相対主義が美の相対主義と異なるのはどのような点だと考えられるか。最も適切なものを、次の⑪～⑭から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 7。

a 美醜の基準は文化や時代が異なれば異なるため、美の相対主義では相対的なものとして美醜の判断が決定できるが、真理の相対主義は、真理か虚偽かを判定する価値判断そのものが相対的なものであるゆえに、相対主義そのものが成立しなくなってしまうという点。

b 美の相対主義は、美醜の基準が文化や時代が異なると主張であるが、真理の相対主義は、絶対的な真理も虚偽もないとする立場であり、結局のところ主張そのものが相対的なものではなくなくなってしまおうという点。

c 美の相対主義は、美醜の基準が相対的なものとして人々に受け入れられやすいが、真理の相対主義は現実の科学さえも唯一絶対ではないと相対化してしまったために、人々に共感されにくいという点。

d 美の相対主義は、美醜の基準が相対的なものとして成立しうるが、真理の相対主義の場合は、真理の基準そのものが絶対的なものであるがゆえに、自己矛盾をきたしてしまう点。

e 美の相対主義は、美醜の基準が相対的なものであり、それに従えば美醜の判定は可能だが、真理の相対主義の場合は、真理か虚偽かを判断する基準が相対化してしまったため、真理とも虚偽とも判定できなくなってしまう点。

問六 傍線部 B のおくと同じ意味内容をもつものはどれか。次の⑯～㉑から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 8。

a 名古屋に営業本部をおく

b 経費のことはひとまずおく

c 交渉再開にしばらく冷却期間をおく

d 語頭にアクセントをおく

e 首都を戒厳令下におく

問七 文中の空欄部 Y に入る言葉として最も適切なものを、次の⑰～㉑から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 9。

a 欠点

b 限界

c 反例

d 証拠

e 不備

問八 文中の空欄部 Z に入る言葉として最も適切なものを、次の⑰～㉑から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 10。

a 批判する

b 否定する

c 受け入れる

d 支持する

e 唱える

問九 本文を内容の上から前半と後半の二つに分けるとすると、前半の最後は、文中の⑲～㉑のどこになるか。次の⑰～㉑から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 11。

a ①

b ②

c ③

d ④

e ⑤

二 次の方文章を読んで、後の問一～八に答えなさい。

今も昔も、希望する仕事にすんなり就ける人などほとんどいないのに、私は何という幸せ者だろう。

そうつぶやくと、隣の天城さんが、にこっと笑う。

「出版社でね、知名度の割に、器が小さいのよ。そこに入るなんてシナン^Aの業。冷麦の束から――」と、易者さんが笹竹を混ぜるような手つきをする。もちろん、ゆでる前の冷麦だ。「目をつぶつて紅色の一本を抜き当てるようなもの」

天城さんらしいとえだな、と思つたら、童顔の飯山さんが、机の向こうでわざわざ立ち上がる。そして、積み上げられた本越しに、

「あれつ、そういうのって善悪じゃなかったですか」

「冷麦^B」

きつぱりと、そういわれてしまう。飯山さんは首をかしげながら、手を上下させる。種類を口に運ぶ動作だ。

「そうかなあー」

とにかく私は紅色の一本、みさき書房の社員になったのである。

自分で本を作る機会には、思いがけなく早くやって来た。

ある文芸誌に連載されていた、現代詩に関する評論が面白かった。エッセー風の部分が適度に加わり、肩肘張らずに読め、多くの詩人の美質特質が楽しく伝わってきた。著者は新進鋭の評論家である。

連載が終わっても本になる様子になかった。現代詩は、売れるとはいえない。ものがものだけに、そしてまた著者の知名度が今ひとつなだけに、出版の運びにならないだろう。

他の会社はどうなのか知らないが、同じフロアで社長が机を並べて仕事をしているみさき書房だ。企画会議にも、私のような駆け出しが末席を汚している。つまり、X だ。

入社して一年ほど経つと、恐れながら意見もいうようになる。そんな頃、会議の終わりに、「企画はないか」と聞かれた。あの評論の連載は、入門としても、また知っているものがより深く味わうにも役立つ。本にならないのは惜しい、と思つていて、おすおす、あけてみた。そうしたら、B 筆^C

「啊、とんとと話を進んでしまった。通説して編集長から、『やりなさい』といわれた時は、何だか宝くじでも当たったように――まだ当たったことはないけれど――ぼおっとしてしまっ

著者の方に、最初の電話を差し上げて、刊行の予定がないと聞いた時、悪いけれど、ほっとした。

「――よろしかったら、こちらで本にさせていただきますのでいいです」

そう口にする、電話の向こうから喜びの空気が伝わってきた。

それから始まった一連の作業は、今も鮮やかに思い出せる。初出誌の編集の方も、好意的だった。

「そりゃあ、よかった。よろしく願いますよ」

挨拶に行ったら、せいいうちのように大柄で頭の丸いベテランの方が、駆け出しの私に、まるで子供の就職でも頼むように頭を下げた。恐縮してしまい、同時に責任が肩にかかった。

題は、明解に『現代の詩』。

自分の服を選ぶよりも、表紙の絵を何にしようかと考える方が、数倍楽しかった。著者の方と、いくつか候補をあげ、その画家の一人がまたま新橋の画廊で個展をやっていたのを観に行ったつもりもした。結局、水彩画の絵に飾られた、なかなか満ち満ちた

幅み抜いたのは、帯の文句、担当が作るのだという。どう書いても、本当にいいものは別にあるように思える。結局、一番初めに考えた『こはが奏でる、こはが描く』を、編集長に見せた。詩が、中で音楽や絵画にたとえられ、論じられていたからである。

弱い、といわれたが、説明として『現代の詩と詩人の魅力』と下につけ、帯裏にあとがきの一部を抜き書きすることで通った。時がたつにつれ、このコピーは、本文が語っている、こはがの恐ろしさの面を伝えている、と反省するようになった。

私のいたるなさを補ってくれたのは、装丁の方である。『こはが奏でる、こはが描く』を、邪魔にならない、しかし、目立つ特殊な字体にしてくれた。おかげで本が得をしたと思う。見ると、ふと手に取りたくなる――と思うのは一種の親馬鹿かもしれないが。

一つの建物が完成するまでには、大勢の繋や船が動くものだ。他にも、やることは様々あった。ああしたうちらと考えていると切りがない。職人さんの『仕事は』が難しい」という言葉を読んだことがある。まったく、その通りだ。経費の問題もあり、また、いつ頃までに完成させなければいけないという、時間の制約もある。階段を一段一段上のようにして、何とか校了までこぎつけた。

さて、著者用見本というのが、最初に十冊出来た。わくわくした。ところが、開いてみてそのうち二冊が気に入らない。目次、章題とページ数を結ぶ線のひと、わずかながら、かすががあった。モリス符号の切れ目のように、線が思切れている。

「そういうことであるんだ」

飯山さんが、あっさりいった。目を凝らして、よく見ないとわからない程度だが、親馬鹿から見ると、子供の服のボタンが点々と取れ、前が開いているような気分だ――まだ、結婚もしていないのに、そんなことをいうのもおかしいのだけれど。

私は『キョウ』にも、その二冊を本の山の一番下に回して、著者のお宅にうかがった。一年前の、よく晴れた春の日のことだった。

（北村薫走り来るものによる。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

（注1） 笹竹――占いに用いる、五〇本の細い竹の束。

（注2） 初出誌――作品や論文などが初めて掲載された雑誌。

問一 傍線部A、イの漢字と同じ漢字を用いるものを、次の各群の①～④から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

アが 12、イが 13。

ア シナン

イ ヒキョウ

① イッシマとぬぬ交

② 解散はヒッパ

③ シザイをなげうつ

④ シリョクを尽くす

⑤ トクシを派遣する

① 事のセヒがかる

② 安全な場所ヘタイビする

③ ヒミツ基地

④ シン深い

⑤ 必要以上にヒゲする

問二 傍線部B「悪が小さい」の説明として、最も適切なものを次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

ア 競争が激しいこと

イ 業界の規模が小さいこと

ウ 小さいことを気にする性格

エ 採用人数が少ないこと

オ 大物でないということ

問三 空欄 Y に入る言葉として、最も適切な言葉を、次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

ア 人手不足

イ 全員参加

ウ 大抜てき

エ 人選ミス

オ 少数精鋭

問四 傍線部B「瓢箪から駒」の意味として、最も適切なものを次の①～④から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は

ア 予想以上のよい結果になること

イ よいと思ったら、とにかくやってみることが大切ということ

ウ スムーズに物事が進むこと

エ 世の中はよいこととよくないことの繰り返しだということ

オ 思ってもいなかったようなことが起きること

◇M5 (852-74)

◇M5 (852-73)

◇M5 (852-75)

◇M5 (852-76)

◇M5 (852-75)

◇M5 (852-74)

問八 傍線部Fその二冊を本の山の一番下に回して、著者のお宅にうかがった「私の心情として、適切でないものを、次の㉑～㉓から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 20。

㉑ 自分の欠点を見られるようなものだから、まずいところはあるだけ隠したい。
㉒ できあがった本は、自分の子供だから少しでもよく見せたい。
㉓ 著者にとつても大切な本であり、下に回しても著者も自分と同じように気付くだろう。
㉔ 著者は上から何冊かを見るだろうから、下に置いて気付かれることを何とか回避したい。
㉕ 許容される程度だということにはわかつているが、何となくだましているようで気が引ける。

◇M5 (852—77)

— 12 —

三 次の文章を読んで、後の問一～八に答えなさい。

今は昔、^A中納言なる人の、女あまた持^も給へるおはしき。大君、中の君には婿^{むすめ}どりして、西の対、東の対に、はなはたとして住^すませたまつりたまふに、三、四の君、義着^{ぎやく}せたまつりたまはむとて、かしこきそしたまふ。
また時々通ひたまふかうどほり腹の君とて、母もなき御女おはす。北の方、心やいかがおはしけむ、つかうまつる御達の数にだに思はず。寝殿の放出の、また一間なる落窪なる所の、二間なるに^B住ませたまひける。君達とも言はず、御方とはまして言はせたまふべくもあらず。名をつけむとすれば、さすがに、おどしの思ふ心あるべしとつみたまひて、^C落窪の君と言へとのたまへば、人々もさ言ふ。
おどしも、兄よりうたぐや思ひつかずなりにけむ、まして北の方の御ままにて、わりなきこと多かりけり。^Dはかばかしき人もなく、乳母もなかりけり。ただ、親のおはしける時より使ひつけたる童の、されたる女、後見とつけて使ひたまひけり。^Eあはれに思ひかはして、片時離れず。
さるは、この君のかたちは、かくかしづきたまふ御女よりもおとるまじけれど、出で交じらふとなく、^Fあるものとも知る人もなし。
やうやう物思ひ知るままに、世の中のおはれに心愛きをのみ思されれば、かくのみぞうち嘆く。
^G日こそへてうさのみさる世の中に心づくしの身をいかにせむ
と言ひて、いたう物思ひ知りたるさまにて。
おほかたの心さま聴くて、琴なども習はす人あらは、いとよくしつけれど、^H誰かは教へむ。母君の、六つ七つばかりにておはしけるに、習はし置いたまひけるままに、箏の琴を世にをしく弾きたまひければ、当腹の三郎君、十ばかりなるに、琴にいられたりとて、「これに習はせと北の方のたまへば、時々教ふ。」

◇M5 (852—78)

— 13 —

問一 傍線部A、Iの意味として最も適切なものを次の各群の㉑～㉓から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号はアが
ア らうたく
イ はかばかしき人
㉑ 利発に
㉒ 苦労が多く
㉓ 不運に
㉔ かわいく
㉕ かわいそうに
㉖ 恋入
㉗ 家事の手助けをする人

◇M5 (852—79)

— 14 —

問二 傍線部A「中納言なる人」を説明したものとして、最も適切なものを次の㉑～㉓から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は
㉑ 娘が何人かおり、上の二人の娘はとても大切にしているが、下の二人の娘はそれほど大切にしていない。
㉒ 多くの女性と恋愛をしてきた人で、情に厚く、母親のいない女性なども引き取って同じ屋敷に暮らしている。
㉓ 娘がたぐさんおり、正妻の娘は大切にしているが、今は亡き女性との間にできた娘は一緒に住んでも放っておいている。
㉔ 屋敷の中は女性ばかりで主人として肩身の狭い思いをしているが、たぐさんいる子供たちをとても大切にしている。
㉕ 今は亡き女性との間にできた娘を屋敷に引き取り、正妻の顔をうかがいながらもその娘をととても大切に思っている。

問三 傍線部B「住ませたまひける」とあるが、誰が誰を住ませたまひけるのか、最も適切なものを次の㉑～㉓から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は
㉑ 四段活用動詞「住ます」の已然形＋四段活用補助動詞「たてまつる」の連用形＋四段活用補助動詞「たまふ」の連体形
㉒ 四段活用動詞「住む」の未然形＋使役の助動詞「す」の連用形＋四段活用補助動詞「たてまつる」の連用形＋二段活用補助動詞「たまふ」の終止形
㉓ 四段活用動詞「住む」の未然形＋使役の助動詞「す」の未然形＋四段活用補助動詞「たてまつる」の連用形＋四段活用補助動詞「たまふ」の連体形
㉔ 四段活用動詞「住ます」の連用形＋四段活用補助動詞「たてまつる」の連用形＋四段活用補助動詞「たまふ」の連体形
㉕ 四段活用動詞「住む」の未然形＋使役の助動詞「す」の連用形＋四段活用補助動詞「たてまつる」の連用形＋四段活用補助動詞「たまふ」の連体形

問四 傍線部C「住ませたまひける」とあるが、誰が誰を住ませたまひけるのか、最も適切なものを次の㉑～㉓から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は
㉑ 「中納言」が落窪の君を
㉒ 「北の方」が落窪の君を
㉓ 「人々」が「わかうどほり腹の君」を
㉔ 「中納言」が「母もなき御女」を
㉕ 「北の方」が御達を

◇M5 (852—80)

問五 傍線部D「あはれに思ひかはしての主語として最も適切なものを次の㉑～㉓から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は
㉑ 中納言と女
㉒ 母もなき御女と北の方
㉓ おとどと北の方
㉔ 後見と落窪の君
㉕ 童とされたる女

— 15 —

問六 傍線部E「あるものとも知る人もなし」の解釈として最も適切なものを次の㉑～㉓から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は
㉑ この君が才能のある人たということを知る人もいない。
㉒ この君がいるということを知る人もいない。
㉓ この君が落窪の君たということを知る人もいない。
㉔ この君がいることも、この君のことを知っている人もいない。
㉕ この君の美しさや聡明さに気づく人もいない。

問六 傍線部Fを元の漢文に直して返り点をつけた場合に、最も適切なものを、次の㉔～㉖から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 35。

- ㉔ 已_レ当_二世_一所_レ為_二㉕ 已_レ当_二世_一所_レ笑_二為_二㉖ 已_レ当_二世_一所_レ笑_二為_二㉗ 已_レ為_二当_二世_一所_レ笑_二為_二㉘ 已_レ為_二当_二世_一之_レ笑_二所_レ為_二

問七 波線部G「希」の読みとして、最も適切なものを、次の㉔～㉖から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 36。

- ㉔ まれなり
㉕ こひねがふ
㉖ のぞむ
㉗ こまかなり
㉘ うすし

問八 本文の作者の主張として、最も適切なものを、次の㉔～㉖から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 37。

- ㉔ 楊雄は、王莽にへつらつて悪いことをしたのだから、非難されてもしかたない。
㉕ 楊雄は、孔子を尊敬していたのに、聖人の道をなすことができなかったのだから、非難されるべきである。
㉖ 楊雄は、優れた道徳心を持っていたのに、やむを得ない事情から悪事に荷担してしまったのだから、非難されるべきではない。
㉗ 王莽と楊雄は、かつて同僚であった時、お互いに悪いことをして、笑いのものになったのだから、楊雄だけが免罪されるべきではない。
㉘ 一方では立派な著作や道徳心を持っていたも、もう一方では悪いことに手を染めれば、こうした人は必ず悪事がばれるものである。